

【緊急院内セミナー】
どうする？ 放射線による健康被害への対応
市民・専門家による提言

3月7日（木） 12：30～15：30 @衆議院第一議員会館多目的ホール

◆プログラム◆

第一部 セミナー「放射線による健康被害～現状把握と対応」

12:30～12:40 趣旨／最新情報の共有

12:40～12:55 甲状腺がんの現状～疫学的観点から

…津田敏秀（岡山大学大学院環境学研究科 教授、電話でのお話し）

12:55～13:10 県民健康管理調査の問題点

…島蘭進（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

13:15～13:30 健康相談会から見てきたもの

…山田真（小児科医、子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク代表）

13:35～13:50 低線量被ばくの影響

…崎山比早子（高木学校、元放射線医学総合研究所主任研究官、医学博士）

13:50～14:00 <質疑>

14:00～14:10 <休憩>

第二部 対話セッション

14:10～14:20 緊急提言の内容の紹介（添付）

14:20～15:30 政府・国会議員・専門家・市民による対話セッション

※事前に提出した質問のご回答を頂く形で進行させていただきます。

資料1：「放射線被ばくと健康管理のあり方に関する市民・専門家委員会」による緊急提言

資料2：事前質問

資料3：福島県での甲状腺がん検診の結果に関する考察（津田敏秀／岡山大学大学院）

資料4：福島県県民健康管理調査は住民の信頼を得られるものだったか？

（島蘭進／東京大学大学院）

資料5：国会東京電力福島原子力発電所事故調査委員会報告書から見る放射線専門家

（崎山比早子／高木学校）

◆主催：放射線被ばくと健康管理のあり方に関する市民・専門家委員会（裏面参照）

◆協力：原発事故子ども・被災者支援法 市民会議

◆問合せ 放射線被ばくと健康管理のあり方に関する市民・専門家委員会 事務局

国際環境 NGO FoE Japan／tel: 03-6907-7217（日中・昼間のみ）

「放射線被ばくと健康管理のあり方に関する市民・専門家委員会」

1. 概要

福島原発事故に起因する健康被害の未然防止に関しては、未だその体制が構築されていない。現在の「県民健康管理調査」は、目的が「不安解消」となっており、放射線の影響は「極めて少ない」ことが前提となっている上に、小児の甲状腺調査のみ照準をあてたものとなっている。調査内容や手法についても多くの課題がある。

また、福島原発事故後に採用された「年間 20mSv」という避難基準についての検証は行われておらず、原発の再稼働に向けた、緊急時放射線防護の基準が原子力規制委員会で議論されてきた。このたび、市民団体の呼びかけにより、住民の健康管理のあり方や、被ばく基準などに関して、独立した検討を行うことを目的とした市民・専門家委員会を設置した。委員は放射線影響の専門家や医療関係者、弁護士、福島の被災者、市民団体の代表などで構成する。

本委員会は、県民健康管理調査や原子力規制委員会の議論や検討結果をレビューし、下記の提言を行うものとする。

- 1) 現行の福島県県民健康管理調査に対する緊急提言
 - 2) 福島原発事故における被ばく・医療問題の検証
 - 3) 原子力規制委員会による被ばく防護などに関する議論・決定の検証および対案の提示
- また、この検討プロセスや結果を発信することにより、広く社会全体に対して問題提起を行う。

2. 委員（五十音訓）

崎山 比早子／高木学校、元放射線医学総合研究所主任研究官、医学博士

阪上 武／福島老朽原発を考える会

島藺 進／東京大学大学院人文社会系研究科教授

高橋 誠子／福島市在住

高松 勇／小児科医、小児科医医療問題研究会、子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク

中手 聖一／子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク

福田 健治／弁護士、福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク

村田 三郎／阪南中央病院 副院長

山田 真／小児科医、子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク代表

吉田 由布子／「チェルノブイリ被害調査・救援」女性ネットワーク

3. 呼びかけ団体

国際環境 NGO FoE Japan

福島老朽原発を考える会

福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク（SAFLAN）

※事務局：国際環境 NGO FoE Japan 渡辺瑛莉、満田夏花 090-6142-1807

Tel: 03-6907-7217（平日・日中） Fax: 03-6907-7219

〒171-0014 東京都豊島区池袋 3-30-22-203